

TOPICS
2

トピックス…②

米国の乳業メーカーが生乳取引を停止

本年5月の現地報道によると、米国の一部乳業メーカーが取引している酪農家からの生乳の買い入れを一方的に停止することを通知した。その理由として、米国内における生乳需給の大幅な緩和が指摘されている。そこで、米国農務省のリポート「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook」等から、米国酪農をめぐる最近の情勢を紹介する。

生乳需給の緩和

米国の生乳生産量は、本年になって伸び率が縮小しつつあるものの、引き続き増加傾向を維持している（図1参照）。本年3月の伸び率は前年同月比1.3%で、1月の同1.7%、2月の同1.6%よりわずかに縮小している。このような状況のなか、乳用牛の屠畜率は前年に比べて上昇を続けており、3月の経産牛飼養頭数は9,406千頭で、2月より2,000頭減少した。これに対して、3月の1頭当たり生乳生産量は前年同月より1.1%増加している。

乳製品の輸出についてみると、本年3月の無脂固形分ベースの輸出量は記録的な高水準（生乳換算：1,930千トン）になり、乳脂肪分ベースの輸出量も2014年7月以来で最高水準（同：452千トン）になったという。これは、国際乳製品市場における価格の上昇、予想を下回って推移した第1四半期の乳製品在庫量、予想を下回りそうな年間の生乳生産量によると言われている。しかし、本年第1四半期における米国内の乳製品需要の伸び率は比較的小さく、乳脂肪分ベースで前年同期比1.1%増、無脂固形分ベースで同0.3%増にとどまっている。

その結果、乳製品の在庫水準は高水準で推移している。バター在庫量は引き続き増加傾向にあり、本年3月末に124千トン（暫定値）となり、前年末（77千トン）より62%増加した。脱脂粉乳の在庫量は、前年末（145千トン）より減少したものの、本年3月末に135千トン（暫定値）と高い水準にある。

このような状況の中、米国の売上高第2位の乳業メーカーであるディーン・フーズ社は2018年2月26日、インディアナ州やテネシー州など計8州に立地する100戸以上の酪農家に対し、本年5月末をもって生乳取引契約を終了すると通知した。また、デンマークに本社を置くアラ・フーズ社は4月30日、ウィスコンシン州に同社が所

有するチーズ工場に生乳を販売している酪農家のうち11戸に対し、7月1日までに生乳の買い入れを停止すると通知した。生乳取引契約を打ち切られることになった酪農家は、新たな取引先を見つけるか、酪農経営を中止するかの岐路に立たされており、今後の動向が注目される。また、乳業メーカーによる一方的な取引契約の解除という行動は、米国の酪農界に大きな波紋を広げそうである。

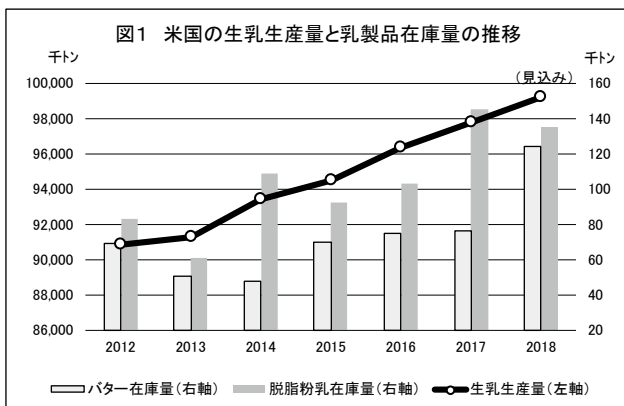
収益性の低下

生産の拡大と需要の伸び悩みの中で、米国内の生乳需給は緩和傾向にある。

しかも、乳牛用飼料価格は上昇傾向にあり、米国農務省によると、昨年11月から連続して上昇している。乳牛用飼料価格が上昇する一方で、昨年11月に100ポンド当たり18.20ドルであった乳価（all-milk price）は、本年2月には同15.30ドルまで下落した。

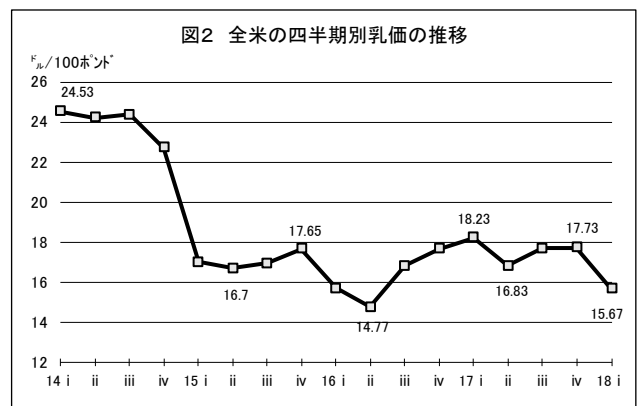
図2に示したように、2014年第1四半期の100ポンド当たり24.53ドルから2018年第1四半期の同15.67ドルへ、この4年間に36%以上も下落した。米国農務省統計局（NASS）の試算によると、乳価が比較的低水準で推移する中で飼料価格が上昇しているため、本年3月の乳飼比は2016年6月以来21か月ぶりに2.0を下回り、酪農経営の収益性が低下しているという。

すでに述べたように、乳用牛屠畜率と乳牛用飼料価格の上昇が見込まれる中、経産牛飼養頭数は本年1年間に5,000頭減少する予想である。また、乳牛用飼料価格の上昇は飼料給与量を抑制し、結果として、経産牛1頭当たり生乳生産量を減少させることが危惧されている。これらの変化は、生乳生産量の増加にブレーキをかける要因となろう。



資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook」

注）乳製品在庫量は期末在庫量（2018年は3月末）である。



資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook」

注）四半期別乳価は月別乳価の単純平均である。